

「笑う」という革命

マヤコフスキー『ミステリヤ・ブッフ』の上演に寄せて

楯岡求美（神戸大学 ロシア演劇）

「笑う」という革命

「笑う」という革命
マヤコフスキー『ミステリヤ・ブッフ』の上演に寄せて
楯岡求美（神戸大学 ロシア演劇）

「笑う」という革命
マヤコフスキー『ミステリヤ・ブッフ』の上演に寄せて
楯岡求美（神戸大学 ロシア演劇）

「笑う」という革命
マヤコフスキー『ミステリヤ・ブッフ』の上演に寄せて
楯岡求美（神戸大学 ロシア演劇）

「笑う」という革命
マヤコフスキー『ミステリヤ・ブッフ』の上演に寄せて
楯岡求美（神戸大学 ロシア演劇）

変わらない日々が永遠に続き、所詮ひとりの力は

非力だという21世紀の日本。20世紀初頭の無声映画がしばしば描いた奴隷のような灰色の労働者である。弱者を抑圧して君臨するファシズムが生々しく台頭（しようと）している。言葉の無力についてヒリヒリとするイタミを味わう。地方の自主性を主張するものが地域コミュニティの解体を叫び、平和を唱えるものが「臨戦体制」を強化する。

ロシア革命が起きたとき、マヤコフスキーが「街頭はわれわれの絵筆/広場はわれわれのバレットだ」(『芸術の軍隊への指令』1918)といち早く革命政権を支持したことはあまりに有名だ。革命1周年のためにこの「ミステリヤ・ブッフ」第1版を書き、内戦中は通信社の窓に情宣ポスターを毎日描いては張り出した。『ロスタの窓』は激烈である。敵に騙されるな、殲滅せよ、味方にはパンを、靴を、そして武器を贈れ。彼は韻を小気味よく踏む言葉の礫を機関銃の弾のように敵の上に降らせ、味方を暖かな綿入れコートで包むように励ます。

しかし、我々が生きる現代、革命で正義のために石を投げ、血しぶきを飛ばして殺す時代は終わった。

では、なぜ今マヤコフスキーなのか。正直、この問いは難しい。まして幻の『ミステリヤ・ブッフ』である。

マヤコフスキーは言葉で世界を創る創造主(クリエーター)であった。言葉を音と形に分解したザーウミ（超意味言語）が救世主のように好まれた未来派の時代。そのなかでマヤコフスキーは、言葉では

なく、人々が後生大事に抱える世界観（イメージ）を切り刻み、冒険やタブーを恐れず笑い飛ばした。パフチンの「笑い」の理論を待つまでもなく、ロシアは

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

歴史的に笑う／笑わせることに長けている。

フェスティバルトーキョー実行委員会	
顧問	野村 寛 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 会長、能楽師 株式会社資生堂 名誉会長
名誉実行委員長	高野之夫 豊島区長
実行委員長	萩田 伍 アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
副実行委員長	市村作知雄 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 会長 豊島区文化商工部長
	栗原 章 豊島区文化商工部長
	東 澤 昭 公益財団法人としま未来文化財団 常務理事／事務局長
	尾崎元規 公益財団法人企業メッセ協議会 理事長、花王株式会社 顧問
	熊倉純子 東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 教授
	斉藤幸博 株式会社資生堂企業文化部長
	鈴木敦子 アサヒビール株式会社経営企画本部社会環境部 部長
	鈴木正美 東京商工会議所豊島支部 会長
	永井多恵子 公益社団法人国際演劇協会日本センター 会長
	小澤弘一 豊島区文化商工部文化デザイン課長
	岸 正人 公益財団法人としま未来文化財団 理事長
	津池奈穂子 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事兼
	小島寛大 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事
	鈴木さよ子 豊島区総務部総務課長
監事	
法務アドバイザー	堀井健策、北澤尚登（骨董通り法律事務所）

フェスティバルトーキョー実行委員会事務局 テレワークズコミュニティ	
代表	市村作知雄
副代表	小島寛大、河合千佳
メンバー	葦原円花、善友名織江、十万聖紀子、長原理江、横橋広彦

事務局長	葦原円花
制作	小島寛大、河合千佳 <p>善友名織江、十万聖紀子、荒川真由子、砂川史織、松嶋瑞希、松宮俊文、横井真子、岡崎由実子、三平文乃</p>
広報・営業	長原理江、横川京子
総務	堤 久美子、谷口英和
チケットセンター	平田幸栄、津池奈穂子、一色壽好 <p>佐々木由美子、佐藤久美子</p>

技術監督	寅川英司
技術監督アシスタント	河野千鶴
照明コーディネーター	佐々木真樹子 (株式会社ファクター)
音響コーディネーター	相川 晶 (有限会社サウンドウィーズ)

アートディレクション & デザイン	氏家啓雄 (有限会社氏家ブランニングオフィス) naomi@paris.tokyo
メインビジュアルウェブサイト	竹下雅哉 (有限会社氏家ブランニングオフィス)
広報	株式会社 フロントシアター・エンタープライズ
広報協力	瀬川 暁子
海外広報・翻訳	ウイリアム・アンドリュース
物販	渡辺 洋
票券	株式会社ヴォートル
執筆・編集	鈴木理映子

主催	フェスティバルトーキョー実行委員会 <p>豊島区／公益財団法人としま未来文化財団／ NPO法人アートネットワーク・ジャパン、アーツカウンシル東京、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）</p>
共催	公益社団法人国際演劇協会日本センター
アジアシリーズ共催	独立行政法人国際交流基金アジアセンター
協賛	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
後援	外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE 81.3 FM
特別協力	西式池袋本店、東京百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、株式会社サンシャインシティ、チヨコト株式会社
協力	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、一般社団法人豊島区観光協会、一般社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、池袋西口商店街連合会、特定非営利活動法人ゼファー池袋まちづくり、ホテルムロポリタン、ホテル グランシティテ、池袋ホテル会
宣伝協力	株式会社ポスターハリス・カンパニー

インターン 逢利留環、穴迫 楓、上原彩加、大野寿はる、大橋絵空、尾崎夏美、金山咲雅、川藤芽偉子、北原七海、久木野実玖、掛 漣、合田穂子、佐藤 聖、鈴木里咲、多田彩希、千葉ゆり、中橋 妻、那 詩暉、那丸吉樹、西本万那、比留岡晴子、堀井優花、松村聖天、徳田幸子、三友通菜、山本菜絵、吉田明理、林 嘉玲

スペシャルサンクス: F17サポーターのみなさま
会期: 2015年10月31日 (土) - 12月6日 (日)



発行:フェスティバルトーキョー実行委員会	
〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨4-9-1 にしすがも創造舎	
TEL: 03-5961-5202 http://www.festival-tokyo.jp/	
編集:鈴木理映子、フェスティバルトーキョー実行委員会事務局	デザイン:小林 剛 (UNA)

Festival//Tokyo Executive Committee
Advisors:
Man Nomura (Chairman, Japan Council of Performers Rights & Performing Arts Organizations, Noh actor) Yoshiharu Fukuhara (Honorary Chairman, Shiseido Co., Ltd.)
Honorary President of the Executive Committee:
Yukio Takano, Mayor of Toshima City
Chair of the Executive Committee:
Hitoshi Ogita (Advisor to the Board, Asahi Group Holdings, Ltd.)

Vice Chair of the Executive Committee:
Sachio Ichimura (Director, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ]) Akira Karihara (Director of Culture, Commerce and Industry Division of Toshima City) Akira Touzawa (Director of Secretariat of Toshima Future Culture Foundation)

Committee Members:
Motoki Ozaki (President, Association for Corporate Support of the Arts, Corporate Advisor, Kao Corporation) Sumiko Kumakura (Professor, Department of Musical Creativity and the Environment, Tokyo University of the Arts) Yukihiko Saito (General Manager, Corporate Culture Department, Shiseido Co., Ltd.) Atsuko Suzuki (General Manager, Social & Environmental Department, Asahi Breweries, Ltd.) Masami Suzuki (Chairman, Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima) Taeko Nagai (Chairman, Japanese Centre of International Theatre Institute [ITU/UNESCO]) Kouichi Ozawa (Culture, Commerce and Industry Division of Toshima City, Director of Cultural Design Section) Masato Kishi (Executive Manager of Toshima Future Culture Foundation) Naoko Hasuike (Representative, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ]) Hirotomo Kojima (Board Member, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ])

Supervisor:
Sayoko Suzuki (General Affairs Division, Director of General Affairs Section of Toshima City)
Legal Advisors:
Kansaku Fukui, Hisato Kitazawa (Kotti Dorri Law Office)

Festival//Tokyo Executive Committee Secretariat
Directors Committee
Representative: Sachio Ichimura
Deputy Representative: Hirotomo Kojima, Chika Kawai
Members: Madoka Ashihara, Orii Kiyuna, Akiko Juman, Rie Nagahara, Masahiko Yokobori

Administrative Director: Madoka Ashihara
Production Co-ordinators: Hirotomo Kojima, Chika Kawai, Orii Kiyuna, Akiko Juman, Mayuko Arakawa, Shiori Sunagawa, Luna Matsumisa, Toshifumi Matsumiya, Takako Yokoi, Yumiko Okazaki, Ayano Misao
Public Relations, Sales & Planning: Rie Nagahara, Kyoko Yokokawa
Accounting: Kumiko Tsutsumi, Miwa Taniguchi
Administrators: Saki Hirata, Naoko Hasuike, Hisayoshi Isshiki
Ticket Center: Yumiko Sasaki, Kumiko Sato

Technical Director: Eiji Torakawa
Assistant Technical Director: Chizuru Kouno
Lighting Co-ordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.)
Sound Co-ordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)

Art Direction & Design: Yoshio Ujiei (Ujiei planning office)
Main Graphic Design: naomi@paris.tokyo
Website: Masaya Takeshita (Ujiei planning office)
PR: Frontier Enterprise Co., Ltd.
PR Support: Yuku Yukawa
Overseas Public Relations, Translation: William Andrews
Merchandise: Jun Watanabe
Ticket Administration: Netra, Ltd.
Writing & Editing: Rieko Suzuki

Organizers: Festival//Tokyo Executive Committee
Toshima City, Toshima Future Culture Foundation, NPO Arts Network Japan (NPO-ANJ)
Arts Council Tokyo & Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)
Produced in association with Japanese Centre of International Theatre Institute
Asia Series co-produced by the Japan Foundation Asia Center
Sponsored by Asahi Breweries, Ltd., Shiseido Co., Ltd.
Endorsed by Ministry of Foreign Affairs, GEIDANKO, J-WAVE 81.3 FM
Special co-operation from SEIBU IKEBUKUROHONTEN, TOBU DEPARTMENT STORE IKEBUKURO, TOBU RAILWAY CO., LTD., Sunshine City Corporation, Chacott Co., Ltd.
In co-operation with Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporation Association, Ikebukuro Nishiguchi Shopping Street Federation, NPO Zephyr, Hotel Metropolitan Tokyo, Hotel Grand City, Ikebukuro Hotel Association
PR Support: Poster Hari's Company

Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2015
Supported by Association for Corporate Support of the Arts, Japan (2021 Fund for Creation of Society by the Arts and Culture)
Period: October 31 (Sat) to December 6 (Sun), 2015

地点×空間現代

ミステリヤ・ブッフ

作: **ヴラジミール・マヤコフスキー**

演出: **三浦 基**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

音楽: **空間現代**

※内容は変更になる場合がございます。ご了承ください。禁無断転載

FT

Festival//Tokyo

革命断念劇ではない。三浦基

『マヤコフスキー事件』(小笠原豊樹著)という本をどうして手にしたのか覚えていない。読み始めたら最後、その興奮は今でも冷めていないから不思議だ。簡単に言ってしまうえば、この本は長らくの定説であったマヤコフスキーの自殺を、時の政府の肅正である、つまり他殺だったと主張するのである。状況証拠や隠されていた証言などを徹底的に解析する著者の情熱は、読む者を嵐に巻き込む。そして、何かに対する怒りと何かに対するあきらめのようなものを一緒に味わい、何とも言いがたい哀しみが残る。

マヤコフスキーの死は、「事件」だった。私は、自殺にせよ他殺にせよ、彼の存在が「事件」だったと理解した。彼は、ロシア・アバンギャルドを代表する芸術家として台頭し、革命詩人とまで呼ばれる存在であった。しかし、ここで混同してはならないのは、彼の存在は、革命ではない、事件だった。何とも言いがたい哀しみの正体は、ここに潜んでいるのではない。戦争ではない、内紛だった。という言い方にどれだけ意味がないか。いや、むしろ重要な意味があるのではない。

今、私たちがモスクワに行けば、巨大なマヤコフスキーの銅像を見上げることになる。もし時の政府による殺人だったなら、今もその広場自体がないか、名誉回復までの時間をいまだに過ごさなければならなかったかもしれない。つまり、マヤコフスキーの死を自殺でおさめること、たかが事件でおさめることで乗り切ったと想像することは、むしろリアルですらある。マヤコフスキーの埋葬に、当時の民衆が道に溢れんばかりに参列している写真を見れば、もしこれが後に肅清されることになる演出家メイエルホリドのように、最初から殺されたとわかっていたのであれば、大変なことになっていただろうと思う。当時の民衆はマヤコフスキーの詩をひとつやふたつ、いや、彼は当時人気のポスター描きだったから、そのスケッチと文句は革命直後の人々の生活に浸透していたであろう、そんな彼が殺された？ そんなことはあってはならないことで、時代の空気に自滅したという物語の方がおさまりよかったのである。ご存知の通り、やがてソビエトは崩壊した。ここでまた考えなければならないことがあると思う。ソビエト

は自殺したのか、あるいは他殺だったのか、と。

私をはじめて行った外国が、ペレストロイカ下のモスクワだった。街では、私の着ていたジャンパーはいつも引っ張られた。軍のバッジや帽子と交換してくれ、というのである(記憶をたどればそのジャンパーは、赤色のナイキだった)。ソビエトは、その内部から崩壊した。つまり自殺行為、自壊だということは、当時のモスクワの空気を思い出しても納得できる。

しかしここで思い出さなければならない。マヤコフスキーは、『ミステリヤ・ブッフ』の出版に際して、今後上演する場合は、その時代に合わせて改編して欲しい、と言っている。なんということか。忘れるな、と言われていたような気がしてならない。革命の喜びを。作者が改編を要求する貪欲さに対して、まずは敬意を表さなければならない。そして、大事なこと。それ故に彼はまだ死んでいないつもりなのだ、ということ。もっと大事なこと、今日、来てくれたみなさんに断っておかなければならない。これからご覧いただく芝居は、前述したようなマヤコフスキーの人生とはまったく関係していません。また、台詞の順番は変更していますが、基本的には内容を書きかえたりもしていません。原作通りにおもしろおかしく、できるだけ滑稽につくることにとめました。でたらめなコントのようなものです。ですから、たくさん笑ってください。どうかお願いします。笑うことは、劇に参加することにほかなりませんから。協力してください。みんなで、彼を、本当に殺してあげたいのです。私たちの明日のために。

あなたは、沈黙するなり発言するなりしてください。でもそれは明日からにしましょう。今日は、無礼講ですから。



© Hisaki Matsumoto

みうら・もとひ

1973年生まれ。1999年より2年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在する。2001年帰国、「地点」の活動を本格化。2005年、京都へ拠点を移す。2007年より(地点によるチェーホフ四大戯曲連続上演)に取り組み、第3作「桜の園」にて文化庁芸術祭新人賞受賞。2010年度京都府文化奨励賞受賞、2011年度京都市芸術新人賞など受賞多数。



マヤコフスキー研究会第4回「劇場実験」より地点の発表(右も) © Matsumi Takuya

劇場の音楽野口順哉(空間現代)

口をかたくとじよう
叫び声は一つだって
ぼくの噛みしめたくちびるから漏らすものか。
(マヤコフスキー『背骨のフルート』小笠原豊樹訳)

音楽は見えないものなのかというと、私は見えるものだと思っている。目ではなく、耳で見る形、それをリズムと呼んでいる。きっと見えるという感覚は、見えない形に対しても訪れる。

自身が製作したオブジェを指して「これは詩である」と言った日本の詩人がいる。彼は文字を「読む」ものから「見る」ものに捉え直す様にして、いわば「見る詩」を書く作家だった。彼にとってそのオブジェとは、見える言葉であって、あるいは読めない文字だった。

リズムが形だとするならば、つまり、いわば見えないオブジェの様なものとしたら、それは詩になり得るか。聴こえない言葉と見えない文字によって空振りし続けるポエトリー。仮にそんなものがあつたとして、そこから意味を見出す事は恐らくできない。叫びだ。もし聴こえない言葉というものがあつたならば、それは叫びでしかない。



© Yohei Takeuchi

音楽は演劇ではない。ミステリヤ(聖史劇)がブッフ(喜劇)でないのと同様に。だから両者が手を取り合って一つの作品をつくるという事は、本来危険な行為だと思う。どちらでもない／どちらでもあるものを作ることは、正直しんどい。しかし、それでもやるのは何故かという、両者にとっての言葉、その外からやってくるものを歓待するためだ。聴こえる言葉と聴こえない言葉、そのどちらでもない言外の響き。もし、この相反する両者の摩擦によって、それが到来するならば進んでこの危ない綱を渡りたいと思っている。

音楽は演劇ではない。ミステリヤ(聖史劇)がブッフ(喜劇)でないのと同様に。だから両者が手を取り合って一つの作品をつくるという事は、本来危険な行為だと思う。どちらでもない／どちらでもあるものを作ることは、正直しんどい。しかし、それでもやるのは何故かという、両者にとっての言葉、その外からやってくるものを歓待するためだ。聴こえる言葉と聴こえない言葉、そのどちらでもない言外の響き。もし、この相反する両者の摩擦によって、それが到来するならば進んでこの危ない綱を渡りたいと思っている。

マヤコフスキー自身が描いた「ミステリヤ・ブッフ」の「清潔な人々」(上)と「不潔な人々」のスケッチ

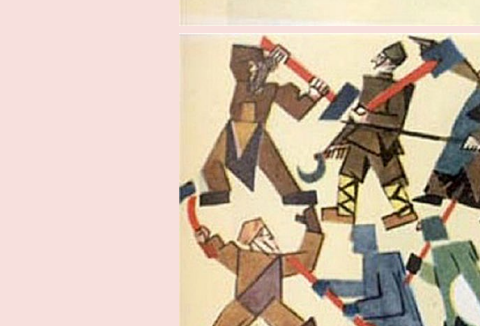
音楽は演劇ではない。ミステリヤ(聖史劇)がブッフ(喜劇)でないのと同様に。だから両者が手を取り合って一つの作品をつくるという事は、本来危険な行為だと思う。どちらでもない／どちらでもあるものを作ることは、正直しんどい。しかし、それでもやるのは何故かという、両者にとっての言葉、その外からやってくるものを歓待するためだ。聴こえる言葉と聴こえない言葉、そのどちらでもない言外の響き。もし、この相反する両者の摩擦によって、それが到来するならば進んでこの危ない綱を渡りたいと思っている。

マヤコフスキーは笑うだろうか。笑って欲しい。今日起きる全ての出来事を、笑い飛ばしてくれ。さもなくば、啜呵を切ってどやしつける!

くうかんげんだい
2006年、野口順哉(gtvo)古谷野慶輔(ba)山田英晶(dr)の3人により結成。編集・複製・反復・エラー的な発想で制作された楽曲を、スリーピースバンドの形態で演奏。東京でのライブを活動の中心としつつ、先鋭的なアーティスト達とのコラボレーションも積極的に行う。2013年、地点と初の共同作業を行い、プレヒト作「ファツツアー」を舞台化。



マヤコフスキー自身が描いた「ミステリヤ・ブッフ」の「清潔な人々」(上)と「不潔な人々」のスケッチ



マヤコフスキー自身が描いた「ミステリヤ・ブッフ」の「清潔な人々」(上)と「不潔な人々」のスケッチ

作：ヴラジミール・マヤコフスキー
翻訳：小笠原豊樹
演出：三浦基
音楽：空間現代
出演：安部聡子、石田大、小河原康二、窪田史恵、河野早紀、小林洋平
美術：杉山至
衣裳：堂本教子
照明：藤原康弘
音響：西川文章
舞台監督：足立充章
舞台監督助手：吉見祐司
宣伝美術：松本久木

協力：リンベツ 林正、C-COM 唐崎修、六尺堂、村上椅子、吉村彩香
制作：小森あや、田嶋結菜(地点)
三平文乃、番友名織江(フェスティバル/トーキョー)
インターン：大橋桃奈、尾崎夏美、胡瀬、中條愛、部 詩瑠
フロント運営：丸山立

記録写真：山西崇文
記録映像：株式会社彩高堂「西袋袋映像」
企画・製作：地点
共同製作・主催：フェスティバル/トーキョー



マヤコフスキー自身が描いた「ミステリヤ・ブッフ」の「清潔な人々」(上)と「不潔な人々」のスケッチ



マヤコフスキー自身が描いた「ミステリヤ・ブッフ」の「清潔な人々」(上)と「不潔な人々」のスケッチ

Text: Vladimir Mayakovsky
Translation: Toyoki Ogasawara
Direction: Motoi Miura
Music: kugakendai
Cast: Satoko Abe, Dai Ishida, Koji Ogawara, Shie Kubota, Saki Kohno, Yohei Kobayashi
Stage Design: Itaru Sugiyama
Costumes: Kyoko Domoto
Lighting: Yasuhiro Fujiwara
Sound: Bunsho Nishikawa
Stage Manager: Mitsuaki Adachi
Assistant Stage Manager: Yuji Yoshimi
Publicity Design: Hisaki Matsumoto

Production co-ordination: Aya Komori, Yuna Tajima (Chiten), Ayano Misao, Oriie Kiyuna (Festival/Tokyo)
Interns: Momona Ohashi, Natsumi Ozaki, Hu Lan, Megumi Chujo, Deng Shiyao
Front of House: Ryu Maruyama

Photography: Takafumi Yamanishi
Video Documentation: SAIKOU DO Co., Ltd
Planned and produced by Chiten
Co-produced and presented by Festival/Tokyo